

令和2年度 日野南地域ケアプラザPDCAシート_公表用（事業計画書、事業報告書、事業実績評価）

—総括表—

◆ 事業計画

地域の現状と今後の方向性

新型コロナウイルス感染症に伴い日野地区も日野南地区も例年実施していた活動が停止している状態だが、民生委員、地区社協、自治会役員等は小さな話し合いの場を持ち、既存の仕組みの見直し、新たなニーズの掘り起こし等意欲的に意見交換をしている。会館開放や健康づくり等を定例で開催し、高齢者を孤立させない活動を常に考えているが、担い手の高齢化という課題がある。誰かのために何かしたいという気質が高齢世代にあり、それが地域活動を支えているが、将来的に若い世代に担い手を広げるためには地域活動の形を変えていくことも検討が必要である。
介護保険サービスの隙間を埋める既存の活動や新規で創設される集い等が絶えることなく発展・活性化されるために、ケアプラザ内の各専門職が情報収集を行いインフォーマルサービスとして支援に活かし地域との連携を深めることが不可欠である。

今年度の重点的な取組

新規	継続	—具体的な取組内容—
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・エリア全体の地図上にケアプラザで所有している情報を落とし込んで可視化する。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	・五職種会議でアセスメントシートを使い地域情報を整理、分析し、地域課題の整理を行う。
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	・五職種会議、包括会議、プラザ内居宅ケアマネ、プランナーを含む事例検討会を月1回開催し、個別相談に必要な地域情報の共有や支援の適切な方法を検討し、専門職としての資質向上を行う。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	・民生委員や近隣事業所のケアマネジャーとの勉強会を開催し、ケアプラザの各職種の役割を周知し、連携し気軽に相談しあえる関係性を構築する。
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	・個別ケースの地域ケア会議の参加者を緩やかに広げ他職種によるチーム支援が意識できるようにする。

◆ 事業報告・事業実績評価

振り返り

地域アセスメント会議、五職種会議、事例検討会を所長も含めて毎月開催し、情報共有とスキルアップに努めた。内部会議を充実させたことで各職種の連携が強化された。包括とコーディネーターが協力して地域の集まりや民児協等に参加して地域課題等の把握に努め、掴んだエリア情報を共有し、さらに地図に落とし込み可視化したことで地域の実情の把握が進んでいる。地域課題を分析・整理し、次年度の計画に繋げていく。民生委員や近隣事業所向けにケアプラザの機能を知ってもらう機会を設け、身近な相談窓口として気軽に相談していただける関係性の構築に取り組んだ。
包括の主任ケアマネジャーの配置が出来ず地域ケア会議の開催やケアマネジャー支援等の業務に取り組むことができなかった。相談や事業については社会福祉士と保健師が連携して取りこぼのないよう支援にあたり、地域交流コーディネーター、生活支援コーディネーター、居宅ケアマネジャー、包括プランナーの連携強化にもつながった。

区からのコメント

厳しい職員体制ではありましたが、職種間で密に情報共有がされ、個別の相談についても区とも連携しながらフットワーク良く対応できています。担当者の不在時や異動があっても、その後の経過が把握できることは、継続的な支援には重要となりますので、意識的に取り組んでください。また、今年度はコロナ感染症を考慮し、地域ケア会議の開催はできませんでしたが、個別相談の中から見えてきた共通の課題を地域課題として共有しました。地域課題の分析を区とも共有していただき、地域ケア会議でも話し合えればと考えています。地域と協働して、具体的な取組みにつなげられるよう、区も一緒に考えていきたいと思っております。

令和2年度はコロナ感染防止のため、諸室の貸出しや相談業務、各種事業の実施などに様々な制限が求められました。そうした中でも、工夫を凝らしながら、関係者との協働により地区別計画の策定を達成するなどの成果も上がっています。今後、ますますのニーズ増が見込まれるICTの利活用については区役所としても各種取組の提案や情報提供などに努めていきます。引き続き、地域の皆様の期待に応えられるよう、適切・健全な施設運営をお願いいたします。